

第4回河川分科会
参考資料

平成19年5月11日

河川局

河川分野における重点目標及び指標(案)

現 行

次 期

社会資本整備重点計画(H15~H19)(抜粋)	
重点目標	指標
	安全
洪水による氾濫から守られる区域の割合	
床上浸水を緊急に解消すべき戸数(万戸)	
土砂災害から保全される戸数(万戸)	
土砂災害から保全される災害時要援護者関連施設数(数)	
大規模な地震、火災に強い国土づくり等	
	地震時に防護施設の崩壊による水害が発生する恐れのある地域の解消(ha)



次期社会資本整備重点計画						
重点目標(案)	指標	10年で概成を目指す項目	重点整備の考え方			
			予防的対策		再度災害防止	自然豊かな河川空間の再生
人的被害の軽減	深刻な被害の回避					
安全	水害などの災害に強い国づくり					
	洪水による氾濫から守られる区域の割合		●	●	●	
	中枢・拠点機能をもつ地区で床上浸水の恐れがある戸数	●		●		
	近年発生した床上浸水のうち未だ床上浸水の恐れがある戸数	●			●	
	土砂災害から保全される戸数/人口		●	●	●	
	土砂災害から保全される災害時要援護者関連施設数(24時間滞滞型)・防災拠点数	●	●	●		
大規模な地震、火災に強い国土づくり等	地震時に防護施設の崩壊による水害が発生する恐れのある地域の解消(ha)			●		
	ハード対策と一体となったソフト対策による被害の軽減					
	ハザードマップ・防災訓練実施率(洪水、土砂、火山)	●	●			

河川分野における重点目標及び指標(案)

現 行

次 期

社会資本整備重点計画(H15~H19)(抜粋)	
	重点目標
	指標
暮らし・環境	水と緑豊かで美しい都市空間等の形成等
	河川における汚濁負荷削減率
	良好な自然環境の保全・再生・創出
	失われた自然の水辺のうち、回復可能な自然の水辺の中で再生した水辺の割合
	失われた湿地や干潟のうち、回復可能な湿地や干潟の中で再生したものの割合
活力	



次期社会資本整備重点計画						
	重点目標(案)	10年で概成を目指す項目	重点整備の考え方			
			予防的対策		再度災害防止	自然豊かな河川空間の再生
	指標		人的被害の軽減	深刻な被害の回避		
暮らし・環境	良好な水環境・水辺空間・水と緑のネットワークの形成					
	河川における汚濁負荷削減率					●
	失われた自然の水辺のうち、回復可能な自然の水辺の中で再生した水辺の割合					●
	失われた湿地や干潟のうち、回復可能な湿地や干潟の中で再生したものの割合					●
	支障のある流砂系のうち、改善した流砂系の割合					●
活力	人々が憩い、賑わう水辺空間を創出し地域の活性化を推進する					
	水辺拠点整備が行われている地域の核となる都市数	●				●

施策横断的指標について、景観、ソフト施策、維持管理について検討中

予防的対策への重点化の考え方

人的被害の軽減

指標

- 洪水による氾濫から守られる区域の割合
- 土砂災害から保全される戸数／人口
- 土砂災害から保全される災害時要援護者関連施設数(24時間滞在型)
 - ・防災拠点数
- ハザードマップ・防災訓練実施率(洪水、土砂、火山)

目指す将来の姿

災害発生時においても、
少なくとも水害・土砂災害
による人的被害を回避・
軽減する対策が必要。



H16年 兵庫県豊岡市
(円山川の破堤による被害)



H16年 香川県大野原町五郷有木



ごごうありき



H5年 鹿児島県吉野町
(がけ崩れの直撃を受けた花倉病院
(24時間滞在施設))

- ・破堤等による壊滅的な被害を極力防御
- ・安全な避難場所のない集落を保全

予防的対策への重点化の考え方

生活や社会経済活動に深刻なダメージを与える被害の回避

目指す将来の姿

指標

- 洪水による氾濫から守られる区域の割合【再掲】
- 中枢・拠点機能をもつ地区で床上浸水の恐れがある戸数
- 土砂災害から保全される戸数／人口【再掲】
- 土砂災害から保全される災害時要援護者関連施設数(24時間滞在型)
 - ・防災拠点数【再掲】
- 地震時に防護施設の崩壊による水害が発生する恐れのある地域の解消

仮に、被災したとしても、国民の生活や社会経済活動が深刻なダメージを受けることなく、持続可能となるよう、国家レベル、地域レベルで守れるべき機能を明確化し、重点的かつ集中的な対策が必要。



- ・近年、三大都市の中心部はたまたま大規模には被災していないが、仮に大規模な降雨により被災した場合、広域的な人や物の流れが遮断されたり、世界的な金融パニックが発生する恐れがある
- ・静岡県由比町由比地区は日本の大動脈が集中しているが、大規模な地すべりが発生した場合、社会経済活動に甚大な影響が広域的に発生する恐れがある
- ・博多駅を含む中心市街地が浸水したことにより主要交通機関、商業施設、金融機関等影響が発生

再度災害防止の徹底

指標

- 洪水による氾濫から守られる区域の割合【再掲】
- 近年発生した床上浸水のうち未だ床上浸水の恐れがある戸数
- 土砂災害から保全される戸数／人口【再掲】

目指す将来の姿

災害により甚大な被害が発生した地域については、被災した治水施設の復旧はもちろんのこと、同様の規模の洪水が発生した場合でも、家屋や資産を再度被災させないための対策が不可欠。

能代川(新潟県五泉市)における再度災害防止対策の実施事例



H12.7被災状況(五泉市)



整備前

信濃川水系能代(のうだい)川



整備後

流下能力を約2.3倍に向上

- ・平成12年水害(家屋浸水707戸)を契機とした信濃川水系能代(のうだい)川(新潟県五泉(ごせん)市)の治水対策により、平成16年豪雨では家屋浸水被害がゼロになった

自然豊かな河川空間の再生の考え方

目指す将来の姿

指標

- 河川における汚濁負荷削減率
- 失われた自然の水辺のうち、回復可能な自然の水辺の中で再生した水辺の割合
- 失われた湿地や干潟のうち、回復可能な湿地や干潟の中で再生したものの割合
- 支障のある流砂系のうち、改善した流砂系の割合

河川の整備に当たっては、多自然川づくりを基本とし、瀬、淵、河岸、河畔林など多様な河川環境を保全する。また、河川の上流や河川と流域との連続性の確保、健全な土砂移動の確保、流量変動の保全等により生物の良好な生息・生育・繁殖環境の保全・再生を図る。特に、地域にとって重要な自然河川の再生に取り組む。

浚渫による河川浄化
勢田川(三重県)



鋼矢板三面張りの川を自然豊かな川へ再生
和泉川(神奈川県)



コウノトリと共生できる環境の復元
円山川(兵庫県)



土砂移動の健全化(イメージ)
(河川環境の改善)

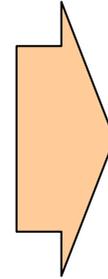


- ・河川における浄化施設等の設置により水質改善を実施する。
- ・治水安全度確保のための河道整備とあわせて、緩傾斜化等により河川本来の自然を再生する。
- ・蛇行河川や湿地環境の再生など、失われてきた河川の良好な自然環境の再生を図る。
- ・土砂移動が健全でないことにより河川環境等を悪化させている流砂系について改善を図る。

目指す将来の姿

指標

□水辺拠点整備が行われている地域の核となる都市数



・景観への配慮、地域の歴史・文化等との調和、清流の回復等により町並みとそこを流れる川とが一体となった魅力ある風景や多くの人が集まる賑わいの場を整備・保全する。

かわまちづくりの取り組み

川の森づくり



高田川の整備例

都市の川を活用した賑わいの創出



新町川の整備例



道頓堀川の整備例

清澄な水が豊かに流れる川の復活

導水前

導水後



多摩川の下水処理水の導水例

地域の歴史・文化の薫る川づくり



最上川のフットパスの整備例

- ・都市の水と緑のネットワークを構築するため、川沿いに植樹できる場所については、徹底的に植樹を実施。
- ・都市においては木を植えるための植樹に関する基準類を新たに整備。
- ・自治体と河川管理者が全川にわたり、植樹の可能性のチェックを行い、植樹計画を策定して川の森づくりを計画的・戦略的に推進。

- ・川の賑わいを創出するため、既存の枠にとらわれない川と一体となったデザイン・活動を募集する提案制度を創設。
- ・市民団体、商店街等の提案の具体化検討を行う制度を創設。
- ・舟運の復活など賑わいを創出する提案を社会実験として実施。
- ・地域社会と河川の協力体制のもとで利活用を推進。

- ・地下浸出水等の未利用水源からの導水や、適切な水資源配分の考え方のもとで環境を目的とした川からの導水を実施。
- ・必要な水量・水質が確保された「まちの清流」を再生。

- ・近年の国民の余暇の過ごし方や観光客の嗜好の変化にあわせ、川の価値を高めるため、川に関する歴史・文化・自然等に関する情報の蓄積・発信を実施
- ・連続したフットパスの整備やNPO等と連携したリバーガイドシステムの創設。

・河川が地域活性化に重要な役割を有する中核的な都市において、地域の発意に基づき、美しく、歴史文化の香る、質の高いかわまちづくりを推進する。